

目的 洋装用および和装用ブラジャーには、いずれも整容効果あるいは防振効果が期待されるが、その方法には大きな違いがあると考えられる。整容方法の違いは、振動特性にも影響を与え、ひいては、左右の衿を重ね合わせて着装する和装では、着崩れにまで影響を及ぼすものと推察される。そこで、本研究では、下着の着装条件が異なると動作時の胸部の振動特性がどのように変化するかについて比較検討した。

方法 下着の着装条件は、裸体時、洋装用ブラジャー着用時、和装用ブラジャー着用時とし、動作時の左右乳頭点の水平(x)方向および垂直(y)方向の移動量を計測した。動作は、両踵を同時に上下させる、左右の踵を交互に上下させるの2種類とし、動作の周期は、0.5秒とした。被験者3名に動作を行わせ、頸窩点、左右上前腸骨棘点、左右乳頭点の5箇所をビデオカメラで撮影し、撮影したものを、Avid Video Shop(Macintosh)を使用して15コマ/秒でデジタル化した。デジタル化したものを1コマずつ静止画像にし、上記の計測点5箇所の座標を、NIH Image 1を用いて読み込み、変位量の経時変化を波形として表わし検討した。

結果 下着の着装条件が異なると、水平方向、垂直方向いずれにおいても変位量の経時変化に違いがみられ、この違いは、また動作によっても異なることが明らかになった。また、裸体、洋装用ブラジャー着用時に比べて、左右の乳房を一つにまとめる和装用ブラジャー着用時には、水平方向の変位に著しい特徴がみられた。